

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100716		
法人名	医療法人 社団 青藍会		
事業所名	グループホーム竹の子苑		
所在地	三重県桑名市大字西方字斧峠字1306-10		
自己評価作成日	平成 23 年 7 月 25 日	評価結果市町提出日	平成 23 年 12 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyouhouyou.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=2470100716&SCD=320&PCD=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23 年 8 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携体制の中で、健康管理や医療面対応へのサービスには力を入れ取り組んでいる。参加可能な利用者による乗馬クラブへの支援を家族の理解と同意を得て行っており、今後も取り組みを続けていきたい。月2回の外食支援も利用者、家族に好評であり、今後も続けていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桑名市郊外に大型開発された団地の一角に、介護老人保健施設と併設された、2階建ての2ユニットのグループホームである。開設して丸8年が経過した。母体が医療法人で幹線道路を隔てた場所に病院がある。管理者は、グループホーム開設以来変わらず一貫して勤務しており、また、それ以前は併設の老健の生活相談員として勤務して、老健、医院との連携は密である。理事長が馬を所有し、アニマルセラピーとして乗馬を取り入れている。本年1月から職員の1階2階の枠をはずし、全職員がすべての利用者を見る方針にし、シフト表を作成して現在軌道に乗り始めたところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者への日々の声掛け支援は理念に触れて実践している。	「倫理綱領」を毎朝引継ぎ時に、全員で唱和をする。声を出すことでみんなの和ができ、仕事のスタートが切れる。倫理は理念と連動し結びついて職員に共有され実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人々との交流出来る機会が基本的に少ない事と、立地条件にも恵まれていない為、日常的な交流は難しいが、地域の小学生の訪問を頂き交流を行っている。	事業所は老健の奥で、周辺地域との交流は難しい。行くより来てもらうことに重点を置いており、ボランティアや中学生の福祉体験教室の受け入れをしている。社協主催の「みんなの音楽会」が11月に予定されて、発表会の参加を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、意見交流を行いサービス向上に活用できるよう努めている。	2か月に1回、開催されている。防災訓練などの実施に当たり、協力依頼などしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当窓口への取り組みや連絡を行い協力関係を作るよう努めている。	居室の空き情報の報告や勉強会の通知をもらうなど、行政とは連携を絶たないよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束には、全職員が日々理解を深め心掛けていますが、立地条件、安全配慮の点から玄関施錠の時間帯がある。	身体拘束の弊害については、併設の老健での職員研修に参加し学んでいる。現在拘束に至る利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃からミーティング等で注意、防止の呼びかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な情報等は職員へ伝達はするが、学ぶ機会を持つ事への実施は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者、家族などの言葉に耳を傾ける様努めている。面会時には家族などへの呼びかけ、聞き取りも行いつつ意見箱を設置し幅広く意見を反映できる場を設けている。	面会時や計画の見直し時にじっくり家族から意見を聞くようにしている。また、運営推進会議に家族の代表も参加してもらい、そこでも意見表出の場になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ケアミーティングを実施する中で機会を設け意見の反映に心掛けている。	係りを4つに分け、それぞれの立場から要望や意見が出される。感染委員会では、緊急の対応に手袋、マスク、処理袋、使い捨てエプロン等を常時居室の一角に置く提案がされ実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員への資格取得への支援等を行い向上心を持って勤務出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加者より全職員へ報告を行う機会を設けている。法人内では月例の職員学習会を実施している。また、隣接の施設での月例職員勉強会への参加も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会や地域の研修・学習会での交流活動の機会を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の希望、不安等を聞きとる機会を設け利用者を良く知り信頼関係が作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族等の希望・不安等を聞きとる機会を十分設け、お互いに信頼関係が作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で現在利用中のサービス等をお聞きし必要なサービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が利用者に尊敬の念を持っており穏やかに生活を共に出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子や体調変化等を家族に詳しく密に伝えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や思いを聞きとり、家族へも呼びかけを行い、馴染みの知人・友人と交流が持てる様に支援している。	徐々にADLの低下がみられ、忘れてしまうことも多いが、家族とも相談し、協力を得てふるさとなどに連れて行ってもらうよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	苑で生活していく中で利用者同士が協力し合い関係が上手くいくように職員が間に立つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も苑での思い出や感想等の便りを頂いたり必要な支援に努め関係を大切にしよう心掛けている。又、入院先への面会等も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活での会話や家族等から本人の意向を探り本人の意に沿うように努めている。本人の思いを出来る限り傾聴するように心掛けている。	理事長の指導もあり、長谷川式簡易知能評価スケールを導入しており、それぞれ担当する職員がほぼ3か月ごと記録を書くので、思うことなどじっくりと利用者向き合って傾聴している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	苑への入居前の生活習慣等の把握に努め生活の中に取り入れ継続出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの出来る能力を最大限に引き出す支援を行う様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で意見交換、カンファレンス、モニタリングを重ね介護計画作成に活かしている。	日々の記録、長谷川式スケール、家族からの聞き取り、カンファレンスやモニタリングをもとに介護支援専門員の資格を有する管理者と副ホーム長で計画書を作成している。家族の同意も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は全職員が共有し計画の見直しや評価に活かしている。個別に介護支援経過の記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な往診、検査等の支援を行い医療面での家族等の要望にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアへの協力などで活動実績はあるが、利用者の力を発揮していただける資源把握には今後も更に支援を進めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内に医療機関があり、医療連携には適切な支援をおこなっている。	母体の医療法人の理事長が主治医で、月、水、金曜日に往診がある。24時間医療体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関より日常の医療面での管理・相談・助言等を受け利用者の生活に活用できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人の支援情報は医療機関へ提出し面会等も行い主治医や家族とも情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・急変時の医療機関との連携について家族の意向・希望を聞き取り説明確認をし納得をいただいた上で対応している。	食事が食べれなくなったら、理事長(主治医)が家族と面談し、どうするか方針が示され、理事長の指示に従う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関だけに頼っている面があるので対応方法の学習や訓練に取り組んでいける様に、隣接施設での職員勉強会の中で、応急初期対応等、学ぶ機会を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	立地条件的に地域協力体制が得にくい為、法人内での対策を更に取り組んでいきたい。	年2回、災害訓練を実施している。訓練には運営推進会議で協力依頼するものの、参加を得るに至っていない。本年度は、スプリンクラーの設置も間もなく始まる予定である。	東日本大震災もあり、今後も大きな災害が予想され、訓練での課題もふまえ、母体、老健、消防署などと連携した、災害に対応できる訓練の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを尊重し利用者に不快感を与えない様に、常に配慮するよう心掛けている。	毎日唱和している倫理綱領にも尊厳を守ること、プライバシーについても掲げられ、大切であると認識されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけにならない様、利用者一人ひとりの希望や考えを聞き支援する様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿う様に個々の利用者のペースを保つように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を身に付けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや調理など、一緒に行う様に支援している。個々の利用者の好みを職員全員で把握している。	木曜日を除き、併設の老健の委託業者による調理である。木曜日は、外食を楽しんだり、お好みの献立でメリハリがある。1階と2階はそれぞれ別メニューである。職員も傍らで見守りながら、一緒に同じものを食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量のチェックを行い把握に努めている。日中いつでも自由にご自分で飲んでいただけるお茶が用意してある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	常に洗面所に歯磨きセットを設置し自ら進んで口腔ケアが出来る環境を作っている。夕食後は義歯を預かり消毒する支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者の排泄パターンを職員全員が把握し自立に向けた支援を行っている。	便秘は体調不調につながることもあり、排便チェック表をつけて、体調にあわせて下剤を利用するなど、排便を促している。利用者ごとのパターンを把握し、トイレ誘導をして、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便チェック表を付け、排便パターンを把握し下剤の調節支援を行っている。食材や水分摂取に配慮し自然排便に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者全員が平等に入浴していただける様に又、楽しんで入浴していただけるように支援している。	毎日お風呂を沸かし、利用者は概ね1週間に3~4日午後の時間に入浴している。一人ひとりゆっくりと楽しんで入れる支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠のある方については、日中活動的に生活していただき、夜間に安眠が出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内服を把握し服薬確認と記録を行い不明な点は常に医療機関へ確認を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る事や好みに合わせた役割で楽しむ事ができる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月2回の外出や、買物等には定期的に外出する機会を支援している。	広いベランダがあり、そこで外気にふれることができる。木曜日は、外食する機会もあり、食材の買い物にでかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食・買い物の際、金銭管理ができるよう心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状等を書いていただく事で支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面は季節感を取り入れた作品を展示したり、リビングにソファークッションを置き家庭的な雰囲気をだして過ごしていただいている。	周囲が竹林で、涼やかな竹林の風が漂っている。リビングと居室は木の扉で仕切られ、ほとんどはリビングで過ごされている。季節を感じさせる壁飾りが職員との合作で作られて飾られている。明るく、冷房も程よく効いて気になる臭いは感じない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされたりリビングでソファ等で座られたり、それぞれ自由に応じて過ごせる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し入居前に使用していた筆筒やTV等を置いて居心地良く過ごせるようにしている。	家族の写真が飾られ、テレビが置かれたりしている。各居室に押入れがあるので、着替えや紙おむつなどそこへ整理整頓されて、居室は清掃も行き届きシンプルなおもむきである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内は安全に配慮した完全バリアフリーになっていて、自立に向けた生活が送れるようになっている。		